

(別紙 8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム 藤苑		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2番34号 (電 話) 011-784-2900		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年4月25日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】 (平成20年 3月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ ○平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算10人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ～ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 22,000円
敷 金	有 (円) ○無		暖房費 5,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (3月 27日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	4 名	要支援2	1 名
年齢	平均 87.2 歳	最低 80 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院・八田内科・三浦精神科・伏古歯科・小林皮膚科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「藤苑」は、母体である特別養護老人ホームを中心とした法人事業のこれまでの取り組みを見直す中で、認知症高齢者の個別ケアの必要性を認識し、運営者はじめ、経験豊かな職員で話し合いをして開設されたホームである。「和願愛語」の基本理念のほか、各ユニットごとの理念やその年ごとの目標を掲げ、利用者のケアに対する意識、考え方が全職員同じ方向性をもち、対応できるように取り組んでいる。利用者の人格を尊重し笑顔の絶えない安らぎのある家庭的な生活の中で、地域とのつながりをもちながら、心地よい生活リズムできめ細かな個別ケアに力を入れている。終末ケアも実践しており、利用者、家族が望むグループホームの在り方といえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目「注意の必要な物品の保管・管理」については、保管場所が決められており改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、日々実践しているケアサービスを振り返りながら話し合いを行ない、具体策を検討して自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年5月から、2ヵ月に1度順調に会議が開かれており、地域に根ざしたホームのあり方を念頭に置き、意見交換を行ない、会議の内容をホームの運営に活かしている。会議記録も整備されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催や推進会議に出席していただき意見を述べる機会を設けている。また、年に一度アンケートを郵送し、無記名で意見や要望を書いていただき今後の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者は自治会の役員でもおあり、町内会の会議や行事に参加したり、またホームの夏祭りには地域の方々にも参加をしていただいている。また、近くの学校や幼稚園との交流もあり、ボランティアも積極的に受け入れており、若い世代の方も含め地域の方にグループホームを知っていただくためにも、地域とホームの絆の強化に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所以来、法人が定める独自の運営理念を掲げ、日々のケアに活かして、努力しているが、地域密着型サービスとしての内容は不足している。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの意義のもとに、地域の一員としての人間関係を築き交流を深める内容を文章化し、パンフレットにも掲げ、事業所の方針目標に繁栄させる取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念のほか、ユニットごとの理念も掲げ、毎月の例会で話し合いをし、ケアに対する意識、考え方が全職員同じ方向性をもって対応できるよう確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は良好で、運営者は自治会の役員でもあり、町内会の行事に参加をしたり、ホームの夏祭りには、地域の方々にもきていただいている。また、近くの学校や幼稚園との交流もあり、地域とホームの絆の強化に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義や活用の仕方を理解しており、日々実践しているケアサービスを振り返りながら話し合いを行ない、具体策を検討して取り組んでいる。		

札幌市東区 グループホーム 藤苑

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	19年5月から2ヵ月に一度順調に会議が開かれており、地域に根ざしたホームのあり方を念頭におき意見交換を行ない、会議の内容をホームの運営に活かしている。会議記録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政担当者との折衝や相談のほか、会議にも出席をし、行政担当者との意見交換などを行ない、常に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した際に、利用者の日常の様子をお話ししたり、意見を伺ったりしているほか、毎月一回の「たより」と一緒に、家族の方に行事の写真や暮らしぶりを書いたお手紙を金銭明細と一緒に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり運営推進会議に出席していただき、意見や要望をいただく機会を設けている。また、年に一度アンケートを郵送し無記名で意見や要望を書いていただき、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力職員の異動や離職は避けるよう取り組みを行なっているが、やむを得ず代わる場合は、1ヵ月の引き継ぎ期間を設け、全職員でフォローをし、利用者の不安をなくすよう配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は、職員の研修参加にも熱心であり、法人主催の職員合同研修会に参加し勉強したり、また、新人は、すぐに新人研修を受け基本的な知識を学んでいる。外部研修においても、段階に応じた研修などに参加できる機会を設けている。研修記録も作成されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はじめ職員は、ほかのグループホームの職員と数回交流会を行なっている。合同で外部から講師を招き講演会を行なったり、勉強会をしたり、当ホームを見学していただいたりと、質の向上に向けた連携作りに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の家庭を訪問して、利用者及び家族の意向や希望などを把握し、さらにホームを見学していただき、十分話し合いを持ちながら徐々に馴染み、安心して利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が居心地良く過ごすために何が必要かを共有し、人生の先輩である利用者との日常的な係わりの中で、喜怒哀楽をともにして、利用者の気持ちをくみ取り、支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、毎日の申し送りや、毎月の会議などで利用者の情報を共有し、利用者の思いや、希望を日頃の言動や表情から見て、本人の気持ちにそっているかを確認しながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、全職員でモニタリング、カンファレンスを行ない、サービスケア更新時には、利用者や家族の意見が反映される介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式による介護計画の見直しは、6ヵ月ごとに行なっている。状態に変化が生じた場合は、家族を含めたカンファレンスを開き、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望により、通院介助や家族への送り、美容室への送迎、買物同行などを当たり前のこととして捉え、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の要望により、月2回の往診、3ヵ月に1度の血液検査、また通院による口腔ケアを行なっている。24時間対応の協力医療機関により、適切な健康面の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前に終末期の方針について話し合いをし、同意書を得ており、段階的に家族、医師、管理者がカンファレンスを行ない、ケアプランを作成して全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての誇りを尊重し、職員は常に言動に留意して信頼関係を築いている。個人情報の取り扱いについても、利用者、家族から同意を得ており、記録の保管場所も外部から見えないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を大切に、表情、言動から思いを察して、利用者のペースに合わせた支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者の希望を採り入れ作成している。利用者は、できる範囲で職員とともに食材の調達、盛り付け、配膳、後片付けを行なっている。月に1回、利用者、職員、ボランティア全員での昼食作りが楽しみごとの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望により、毎日の入浴や、希望する日時にも、入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式の情報をもとに、趣味に応じて書道、カラオケ、畑作り、ごみだし、掃除、特別養護のシーツ交換の手伝いなど、ホームにも自分の役割があるということを実感していただけるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少しでも天気が良いと全員が外出を希望し、ドライブ、外食、花見、公園や前庭での昼食と、利用者、職員が楽しみながら日常的に過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため、19時以降は施錠をしているが、日中は、鍵を掛けないケアを実践している。利用者からの外出希望や外出しそうな様子が見られたら声掛けをし、職員が同行し、常に見守りをしながら、利用者の思いをくみ取り落ち着いた生活ができるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中想定火災避難訓練は、5月、11月に実施しているが、消火器の扱い方、地震などの災害対策・夜間想定避難訓練は、今後の実施を考えている。系列の特養施設の協力体制は得られるが、さらに近隣での協力も得られるような働き掛けも合わせて検討している。	○	利用者の安全を守るため、検討中の件や地域の協力を得られるよう推進会議に要請するなど、早急な提案実施が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の特養施設の栄養士がカロリーチェックをし、食事・水分摂取量は全職員がチェック表にて把握し、食欲がない場合は栄養補助食品で補ったり、好みの物を提供したりと柔軟な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがよく入る窓際にダイニング・キッチンがあり、利用者、職員が一堂に座れるテーブルで和気あいあいの中で楽しい食事の時間を過ごしている。また、季節ごとにフロアの花を利用者と一緒に取り替えたり、壁には、行事に撮った写真や利用者の作品等を飾っていて安らぎの空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者はじめ職員は、常に利用者や家族の思いを組み取り安心して生活できる居室作りを支援している。居室内は使い慣れた家具や家族の写真、手作りの物などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。